



サワダ精密株式会社  
平成7年度受賞  
オイル・スキーマー  
油とりっこ

高品質・短納期を可能にする  
加工技術に欠かせない油  
環境保全の小さな大黒柱

産業の発展により、高品質、短納期、低コストが求められる現場において、機械加工は欠かせない。その時に発生する加工熱を抑制するのに必要不可欠なのが「切削油」と呼ばれる工業用油。排出される汚水は、油、金属片等が混ざり合い、分別するのが困難だった。そこで油と水を分離する機器を設置し、環境に配慮した廃棄処分を行っていた。しかし従来の機器は大きく場所を取り、導入費用も負担が大きかった。

もっと手軽に零細企業でも導入できるものは作れないかと、自社のノウハウを活かし、開発チームを結成。思考錯誤の末にL型ボディと自立スタンドにより省スペースを実現したオイル・スキーマー「油とりっこ」を開発。樹脂ベルトが吸着した汚水をしぼりローラーが、水と油に効率よく分離する性能を搭載。評判は瞬く間に広まった。

さまざまな事情で設備導入を諦めていた企業に、手頃な価格帯で製品を提供した同社の挑戦は続く。



1.工場の機械1つひとつに、「愛称」が付けられ、機械に愛着を持って楽しく取り組める環境作りをしている。2.狭い場所でも容易に設置ができる。3.しぼりローラーの採用で、ベルトに吸着した水分をしぼり取るため、効率よく油・水の分離ができる。

interview  
これぞ!!  
ものづくりの極意!!

要求通りのものを作るのではなく、期待以上のものを人として、企業として頼られ愛される「プロ集団」であれ

開発した当時の想いと将来の新たな展開



常務取締役  
小林 功治氏

お客様が求められるレベルはどんどん高くなってきています。時にはくじけそうになる時もありますが、より高い志で技術を磨き、知識を蓄え、企業の武器となる設備も整え、人材も積極的に育てていきたいです。社員数を100人にしたいというのが昔からの目標です。ものづくりは人づくりでもあります。次代を担う若者と、経験のある社員がともに良い刺激を与え、受け合いながらお客様に永く愛される会社を目指していきます。

●会社沿革 / 1984年創業。88年サワダ精密(株)設立。95年自社開発製品「油とりっこ」を発売。03年ひょうご経営革新賞受賞。10年新生産方式「ヨネスカシステム」開始。12年エンジニアリング事業部発足。

●会社概要 / 社名: サワダ精密株式会社 住所: 〒671-1154 兵庫県姫路市広畑区吾妻町1丁目39番地 電話: 079-239-2225 FAX: 079-239-4448 URL: http://www.swdpre.co.jp





株式会社セシルリサーチ  
平成21年度受賞  
海洋外来汚損生物に対する  
検出・対策システム

付着生物による被害を予防抑制  
自然環境を守りつつ効果的に  
新たな可能性と価値を見つけない

臨海部の発電所では、冷却水として海水を取水している。取水口では水の流れが速く、餌となるプランクトンが豊富に流入すること等から、付着生物が生息しやすい環境となり、大量付着成長による取水障害・機器閉塞等が大きな問題となっている。更に、近年では南方海域等からの外来付着生物が増加し、深刻な問題となっている。これに対応する検査キットを開発したのが(株)セシルリサーチだ。

同キットは、フジツボ等の生物が独自にもっているタンパク質を海水サンプルから検出することで繁殖時期を早い段階で察知し、適切な時期の予防駆除対策が可能となった。その検出方法は妊娠検査薬のように誰でも手軽に扱え、結果もわずか15分で分かるのが特徴。

開発には、一旦の完成を迎えるのに4年を要した。当初は検出すべきタンパク質と類似した成分にも反応し、対象となる種類以外の生物まで誤認していた。これを特定の生物のみに反応するよう改良を重ねること2年。ようやく納得のいく精度が実現した。現在は対面提案型の国内販路を、今後は海外へと広げる事が目標だ。



1.研究室では、様々な海洋生物の研究が行われている。 2.調べる対象物によってキットが違うのも特徴。 3.簡易検出キットは、研究室内で専用装置を使いながらひとつひとつ手作業で作られている。

interview

これぞ!! 極意!!  
ものづくり

産業界における優秀な生物学者らの活躍を切望  
付着生物のもつ未知の世界で逆転の発想を

開発した当時の想いと将来の新たな展開

日本の産業において、生物学はまだ弱分野です。優秀な科学者は多数いるものの、付着生物に関する専門家は非常に少ないのが実状。それだけに、環境影響がほとんどなく、付着を制御する技術の開発も、有用生物に関する研究もなかなか進まないのが現状です。研究開発を重ねて、世界が驚くような新しい発見や事業をやりたいものです。



取締役社長  
山下桂司氏

●会社沿革／2006年3月姫路エコテック(株)より企画グループを分離独立し、濱中製鎖工業(株)の出資で新会社(株)セシルリサーチを設立。同年4月濱中製鎖工業(株)白浜工場内の旧濱中技術研究所を改築し、実験室・オフィスを移転

●会社概要／社名:株式会社セシルリサーチ 住所:〒672-8023 兵庫県姫路市白浜町甲770番地  
電話:079-245-3037 FAX:079-245-3038 URL:http://www.sessile-research.com





# 1

## 株式会社大成化研 平成8年度受賞 窒素ハンダゴテ

### 商品開発の原点は 世の中にあるもの 世の中に役立つもの

創業当初は電子産業機器及び電子材料を販売。その後、「水質浄化装置」を研究開発し姫路市の日本庭園・好古園に設置。大成化研の自社商品第1号となった。そして自社商品第2号が「窒素ハンダゴテ」である。

発案者の松原社長は、自動車や電子、メディカル等さまざまな領域の化学材料を提供する大手企業で固体推進ロケットの燃焼開発の経験があり、化学の知識はもちろん、研究開発のノウハウがあった。「世の中にあるもの、世の中に役立つものを作ろう」そう考えた松原社長の目に留まったのが、酸化により不良品が頻繁に出る「はんだごて」だった。空気中の窒素を利用し、こて先からホット窒素ガスを噴射させ窒素雰囲気（不活性ガス）でのはんだ付けを可能にした「窒素ハンダゴテ」は大手電機メーカーの製造ラインに採用。「窒素ハンダゴテ」は、鉛フリーの革命児となり、その後「窒素自動はんだ付けロボット」も開発された。



1.窒素ハンダゴテ使用の様子。 2.現在窒素ハンダゴテの機械は大型化、自動化されている。 3.糸ハンダも片手送りで高品質・低コスト・時間短縮が実現した「J-MAX PRO 80G」。

### interview

### これぞ!! 極意!! 開発した当時の想いと将来の新たな展開



代表取締役  
松原 賢政 氏

### 窒素発生の技術力が会社の基盤をつくり 今後の商品開発に弾みをつける

商品化のノウハウはあっても、販売のノウハウがなかったので「とにかく商品を見てください」と飛び込み営業をし、東京の展示会にも積極的に出展。最初にソニー（株）が採用してくれました。最近では窒素発生の技術が大学等のアスリートのトレーニングルームに採用され高地トレーニングの一環として活躍しています。



4.潤滑を良くするため、自転車のチェーンにナノクロスプレーをする様子。 5.6.ナノ墨を活用し、エンジンオイルや潤滑スプレーが商品化されている。



# 2

## 平成24年度受賞 カーボンナノチューブの 純水分散液「ナノ墨」

### 新素材を活用し エネルギー時代に 省エネの大革命を!

チタンより高い強度を持ちながら非常に軽く、高い柔軟性と電気や熱への高伝導率等、多くの特性をもつ「カーボンナノチューブ」。(株)大成化研の研究班は、カーボンナノチューブを金属に配合させる鑄造方法や、エンジンオイル等にこれを分散混合させることで潤滑性が高まり、エネルギー消費が抑えられる効果を見出し、研究開発の結果、純水分散液「ナノ墨」が完成した。大学や研究施設に実証実験を依頼、「ナノ墨」が燃費を向上させると同時に排気ガス量や振動・騒音を低減させるほか、エンジンやオイルの寿命を伸ばすデータを採用。その後、分散剤等の不純物を使わず、水素イオン濃度を調整することで、エンジンに与える諸課題をクリアすることで、平均して15~20%の燃費改善が確認されたため「ナノコロイル」-OI L」として販売に踏み切った。また、「ナノ墨」の潤滑性に着目し、開発された「ナノコロイルスプレー」は、大型の重機や工作機械、競技用自転車や住宅設備用の高性能潤滑スプレーとして高い評価を受けている。

### 業界・分野にこだわらず、常に前進する企業でありたい

製造業や自動車業界だけでなく常に新しい感覚と発想、商品の特許技術を活かして医療や農業等の異分野への事業展開を計画しています。  
また、メンテナンス等のアフターサービスの充実を図り、商社・メーカー・サービスの3つの機能を柱に、「自然と人に優しいものづくり」を目指していきます。

- 会社沿革 / 1980年大成化研を設立。82年(株)大成化研に組織変更。94年「光・空気・水」をテーマに「J-MAX」の商標で自社商品の開発。00年「パテントメッシュ」を開発。16年「ナノコロイルスプレー」発売。
- 会社概要 / 社名: 株式会社大成化研 住所: 〒670-0995 兵庫県姫路市土山東の町1-2 電話: 079-293-2782 FAX: 079-293-6666 URL: <http://www.jmax.co.jp>





# 1

## 株式会社テクノスジャパン 平成9年度受賞 重度障害者向け意思伝達装置 MCTOS:マクトス

### 医療・介護の現場で ここを通わせる コミュニケーション機器

これまで重度障害者や難病患者の意思伝達装置としてスイッチやセンサーを使った機器はあったが、指の動きや瞬きも難しくなり、現在のスイッチが使えなくなって、家族や介護者とコミュニケーションができなくなるケースは少なくない。そんな利用者の期待に応えたのが「高機能バイオスイッチ・MCTOS(マクトス)」。

身体の部位の動きに頼らないスイッチとして、人の生体信号(眼電・筋電・脳波)を利用し、事前に登録した言葉「ありがとう」「今日は気分が良いです」等を選択して答えるコミュニケーション機器で、日本のみならず世界からも高い評価を受け、開発から約20年経った今でも改良研究を続けている。

『ここに技術をそえて!』

常に使う人とその周りの人に目を向けた製品づくりは、会社のスローガンである。



1.障害者自立支援法に基づいた補装具費制度の適用が可能。 2.開発会議の様子。 3.2009年 経済産業省「ものづくり日本大賞・優秀賞」受賞

**interview**  
これぞ!! 極意!! 開発した当時の想いと将来の新たな展開

**「作りたい物を作る!」  
これが「ものづくり」の原点です**

創業者の大西会長が、これまでの当社の製品の全てを創り出しました。平成9年受賞製品の「MCTOS」は、入院時の父親との筆談がヒントになり、重度障害者用意思伝達装置として開発した「生体信号」を利用する「世界初」の製品です。とても小さな市場ですが、「無くしてはならないもの」として人の役に立っている事は「ものづくり企業」の誇りです。

取締役社長  
牛谷 定博氏



# 2

## 平成25年度受賞 見守り介護ロボット ケアロボ

### 独居の高齢者を 家族に代わって見守る 介護ロボット

日本は高齢化社会が進み、核家族化による老老介護や認知症患者が増加している。その一方で少子化により「介護をする担い手」が減少することが社会問題に。そこに着目し開発した製品が「見守り介護ロボット ケアロボ」だ。

高齢者の異常を検知したり生活をサポートする様々なケア製品(徘徊離床検知・安否確認・服薬支援等)が作動すると「ケアロボ」に信号が送られ、目の部分に内蔵したカメラで写真を撮って家族や介護スタッフにメールで画像が送られる。離れたところに居ても高齢者の状況が分かるのでタイムリーに対応できる。

これまでインターネット回線で送るシステムはあったが、携帯電話網(ソフトバンクと提携)を利用することで面倒なネット環境の構築が不要で、独居高齢者の自宅でも安価にサービスが受けられる。

介護する家族が安心して仕事を続けられる環境整備に国も力をいれており、介護保険制度のレンタル対象製品としても注目されている。



4.2014年経済産業省 ロボット介護機器導入実証事業認定。 5.6.開発室での様子

### 「世界のオンリーワン製品」を作ること。これからも果敢に チャレンジします

病院・高齢者施設向けに開発した「離床センサー」。認知症高齢者の対策として開発した「徘徊感知機器」。いずれも高齢者ケアと介護者の負担軽減が目的の製品群で、今では100製品を超えるラインナップです。平成25年度受賞製品の「ケアロボ」は、これら実績を積んだ製品群を無線ネットワークで結び、これから急速に増える独居高齢者を見守る介護ロボットです。見ているのは、将来の高齢者ケアで役立つ製品です。

- 会社沿革/93年4月創業。94年農業法人向経営支援システム「FACTOS」開発。97年「MCTOS」開発成功。05年離床センサー「コードレスコール」開発・発売開始。09年ものづくり日本大賞・優秀賞(経済産業省)。13年見守り介護ロボット「ケアロボ・バル」開発。
- 会社概要/社名:株式会社テクノスジャパン 住所:〒670-0947 兵庫県姫路市北条1丁目266番地 電話:079-288-1600 FAX:079-288-0969 URL:http://technosjapan.jp



2006年 経済産業省-中小企業庁 「元気なモノ作り 中小企業300社」選定  
2013年(社)中小企業研究センター 「第46回グッドカンパニー大賞」特別賞受賞



株式会社日本技術センター  
平成22年度受賞  
検査用照明S-Light

「不良の見逃しゼロ」を  
可能にした  
画期的な照明装置

フィルムやガラス等透明体内部の欠陥検査、塗装面の表面検査等に使用できる「検査用照明S-Light」。この装置が開発されたことにより、目視検査で費やしていた膨大な時間とコストが大幅に削減できるようになった。目視検査は誰にでもできる簡単な作業と思われがちだが、目と脳を酷使する大変な重労働だ。

その現場状況を改善するためにも、検査のイノベーションは急務だった。さらに従来の照明では確認できなかった欠陥が簡単に発見できるようになった功績は大きい。もともと液晶パネル向けの検査装置を開発していた同社だが、その技術をさまざまな製造工程に適用するには、製品の小型化が必須。

その課題をグループ会社のフェニックス電機（姫路市豊富町）とのコラボレーションで解決した。すでに主要なフィルムメーカーに採用されているほか、自動車メーカーの塗装ライン等、様々な業界の製造分野から期待を寄せられている。これからは、より高い品質が求められる生産現場でのビジネスチャンスを開拓していきたい。



1.2.肉眼で見えなかった欠陥を容易に検出できる。 3.ラップに光を当てた比較欠陥検査の様子。



高い性能をもっと多くの企業に知ってもらい  
S-Light事業をものづくりの柱に育てたい



産業機器システム事業部 営業部  
テーブルーター  
足立博史氏

開発した当時の想いと将来の新たな展開

当社はもともと、液晶パネルの製造過程で不良部品を発見する光学検査装置の評価は高く、大手電器メーカーをはじめ海外企業との取引もありました。そのノウハウを業界の垣根を超えて広めたいと開発したのが「検査用照明S-Light」です。今後は、検査画像をデータ化することにより自動化システムを確立していきたいです。

●会社沿革／1967年(株)日本技術センター設立。91年人材派遣部門を新設。02年資本金6400万円増資。09年フェニックス電機(株)と経営統合、ヘリオステクノホールディング(株)のグループ会社となる。13年(株)関西技研を吸収合併。15年(株)テクノプロバイダーを吸収合併。

●会社概要／社名：株式会社日本技術センター 住所：〒670-0965 兵庫県姫路市東延末4丁目73番地 電話：079-225-3355 FAX：079-225-3379 URL：http://www.nichigicenter.co.jp



パイオニア精工株式会社  
平成26年度受賞  
**災害避難用  
あんぜんしょいっこ**

**自然災害時の新たな避難器具  
医療介護業界からも注目を集める  
人命担う技術が目指す未来**

2011年に発生した東日本大震災。被害者の多くが津波の被害により亡くなられた。一刻も早い避難が命運を分ける中、高齢者や体の不自由な人をいかに迅速に避難させるかが大きな課題となっている。

そこで着目したのが、荷物を運ぶ登山用の「背負子」。介助が必要な人をイス形の「あんぜんしょいっこ」に乗せて背負い、後方からも搬送者が事故防止の支援をする。おんぶとは違い搬送者の両手が自由で、搬送者が前方を向いて移動するため、危険を事前に察知しやすく、狭いスペースでもスムーズに搬送でき、安全性が高いのが特徴だ。

軽量と強度を兼ね備えたアルミ製の器具は、本体質量2.7kg、耐荷重120kgと軽くて丈夫。避難用器具として発売したが、その後、思わぬニーズが。

使い勝手の良さから医療や介護の現場で使用される等、新たな市場への展開も期待されている。今後は施設設置や持ち運びに対応できる折りたたみ式タイプの完成を目指す。



1.安全性、利便性を追求し、階段を上り下りする時もスムーズに移動できる。2.ロゴマークでイメージカラーでもあるグリーンは環境配慮型企業を表現。3.他にも、折りたたみ式のシューホーン、ベンスタンド、図面折り機等、さまざまな商品を開発している。

**interview**

これぞ!! 極意!!  
ものづくり

**普段使いできるイスとして、緊急時には避難用具として  
オシャレさと機能性を追求しつつ、更なる進化を目指す**

**開発した当時の想いと将来の新たな展開**

オンリーワンかつ人の役に立つ看板商品が作りたかった。災害から時間が経過すると、どうしても有事への備えをおろそかにしてしまいがちです。個人の防災意識を高めるお手伝いをしつつ、街中や各施設、学校等にも設置していただけるのが目標です。ますます深刻化する高齢化社会に貢献できるものづくりを目指し「分かりやすく使いやすい」をコンセプトに、もっと進化させていきたい。今後の新商品にも期待してください。



代表取締役  
**黒田 純市氏**

●会社沿革 / 1990年パイオニア精工(株)設立。04年鳥取にパイオニアメタルパーツ設立。05年本社隣接地に第一工場開設。14年東京営業所開設。同年鳥取事業所開設。

●会社概要 / 社名:パイオニア精工株式会社 住所:〒671-0252 兵庫県姫路市花田町加納原田906  
電話:079-253-4105 FAX:079-253-4106 URL:http://www.pioneer-seiko.co.jp



# 1

## 有限会社播磨海洋牧場 平成27年度受賞 播磨の口女

### 縁起のいい出世魚ボラ 日本三大珍味にも 負けない白子の燻製は 外国人にも人気

播磨灘は、全国でも有名な好漁場。多くの魚が回遊するので、網にボラがかかる事も少なくない。「ボラ」と聞くと「臭みの強い魚」と連想する人も多い。その原因は、昭和の高度成長により生息域の環境が悪化し、泥臭さが目立つようになってしまった事。しかしボラは本来、出世魚として有名で、関東ではお食い初め等祝いの席に出される魚であった。また日本三大珍味のひとつ「カラスミ」はボラの卵巣を塩漬けにしたもので、食通の間では人気の逸品。加工次第で珍味になり得る魚が敬遠される事に心を痛め、名誉挽回のために立ち上がった。

独自の燻製技術により、白子の旨味を最大限引き出す方法を編み出した。食品添加物を使用せず、絶妙な燻製度合いの食感が観光客の目にとまり、瞬く間に看板商品となった。

今後も、価値があるのに魅力を見落とされがちな海洋資源の有効活用を目指し、水産業の未来を拓いていく。



1.毎日水揚げされた魚を仕分けし、鮮度を落とさないよう管理されている。 2.白子を燻製にした播磨の口女は、高級珍味に引けを取らないおいしさと人気。 3.網棚に白子を並べた状態で燻製にする。

#### interview

### これぞ!! 極意!! 開発した当時の想いと将来の新たな展開



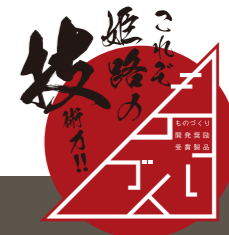
代表取締役  
向井 昭博氏

### 新鮮な魚介類とユニークな加工品で姫路を盛り上げる

せっかく捕れた命を捨ててしまうのはもったいないです。今は食卓にのぼらない魚でも、アレンジ次第で良い商品になる可能性はあります。自然への感謝の気持ちと、自社ならではの視点を活かした探求心を発揮し、オリジナル製品の開発に積極的に取り組んでいきます。「播磨ブランド」を牽引する企業となるよう、社員一丸となって頑張ります。ものづくりに終わりはありません。常識に囚われず、これからも挑戦を繰り返していきますよ!



4.小さい方が普段お店や食卓に並ぶ骨切りできるハモ。大きい方は今回受賞した製品に使用される大きさのハモ。 5.1つひとつ手で開き、製品にしていく。 6.現在、お城の前にあるアンテナショップ「はりかい」で食べてもらうことができる。



# 2

## 平成28年度受賞 播磨の三郎ハモ

### 特大ハモならではの 味わいと魅力を伝える 突破口を拓く骨ごと 食べられる新たな蒲焼き

初夏から夏にかけての高級魚として知られるハモ。通常料亭等で使用するハモは体重700gまでのもので、1kgを超えるものは骨切りだけでは食するのに不十分とされ、食材として使われることがなかった。しかし成長のピークを迎える秋のハモは脂ののりが良く、非常に味わい深い魚。このおいしさを伝え、漁師と消費者がともに喜ぶ商品にするために作られたのが「播磨の三郎ハモ」だ。

ハモはウナギ目に分類され、蒲焼きに適した品種であることから、身を崩さず商品として完成させようと挑戦を始めた。独自の高温高压加工により、大きく数も多い骨を食べられる柔らかさまで加工。料亭には味付けをせず白焼き風で、店舗販売用には蒲焼き風にして出荷している。一般家庭では蒲焼きというウナギのイメージが強いため、ハモの特性と良さを理解してもらうのが一番の課題だという。しかし一度食すとその魅力の虜になる人も続出。価値ある食材資源の普及への探求は尽きない。

### 失われつつある魚料理文化を守りたい。独自技術で日本の食卓に新たな風を

今、若い人の中で魚離れが進んでいます。肉に比べると調理に手間もかかるし、食べる時に骨を取るのが面倒に思われています。それならば骨ごと美味しく食べられるようにとの逆転の発想から開発に取り組みました。ハモだけでなく、売れ筋重視の流通システムから外れてしまう良い品がたくさんあります。それらをすくい上げ漁師さんと家庭の橋渡しができればと思っています。将来的にはゴミゼロの魚料理文化に貢献していきます。

●会社沿革/1999年播磨海洋牧場創業。クルマエビ養殖・水産生物の中間育成及びコンサルティング。01年(有)播磨海洋牧場設立。02年水産卸による販路開拓事業開始。04年インターネット事業による小売販売事業開始。10年白浜工場開設。水産加工の準備・計画・実施。11年「はりかい姫路店」オープン。  
●会社概要/社名:有限会社播磨海洋牧場 住所:〒672-8023 兵庫県姫路市白浜町丙612-45 電話・FAX:079-228-5360 URL:http://harikai.com



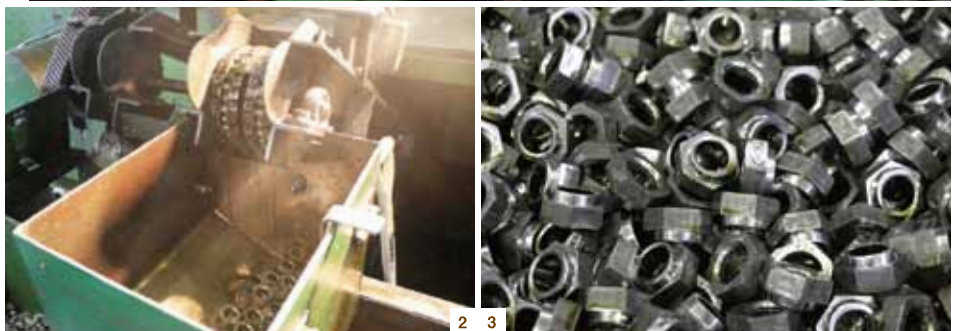


## 原鉄工株式会社 平成15年度受賞 パーツフォーマーによる 緩み止めナット

### 緩みにくく、より快適に 安心安全を追求 視点を変えて繋げる未来

建築物などの連結、組立に不可欠なネジ。気軽に緩みを締め直せる家庭用の製品もある。交通網や構造物に使われるナットは、万が一緩むと大事故につながりかねない。同社は、その様な高度な性能が求められる世界において、緩み止めナットの量産化に成功。一つひとつ切削で行っていたナット作りを、圧造技術を駆使し、安定して量産できるようになった功績は計り知れない。更には、高い安全性と信頼性、品質の高さが点検コスト削減にもつながると設計業界からも絶大な評価を得ているのも、その技術の高さの証だろう。高速鉄道のレールや、巨大な鉄骨構造物等にも同社のナットが使用され、国内外問わず活躍の場を広げている。身近な業界では自動車の組み立てや送電線と通信用電柱などにも採用され、快適な生活に欠かせない存在として街中に息づいているところだ。

現在、同社と取引先は堅い信頼関係で結ばれ、同社のナットのように緩むことがない。これからも安全安心を追求し、人々の暮らしを支える企業でありたいと技術革新に取り組んでいる。



1. ナットフォーマーで自動的に切断され、形成される。 2. 高速タッピングマシンでねじ切り。 3. 原鉄工の技術が詰まった緩み止めナット。



### オンリーワンの商品でナンバーワンを目指して

#### 開発した当時の想いと将来の新たな展開



代表取締役  
原 孝 史 氏

高速鉄道レールに付ける緩み止めナット大量受注の時、こんなにできるかなあ…と不安でしたが、この仕事に集中し、無事納期までに納めることができました。この仕事では儲からなかったですが、この実績が営業力アップになり仕事も増え、知名度、信用度もアップしました。いい仕事をする、次の仕事を呼んでくれる!ということを実感しました。

●会社沿革／1946年姫路市白浜町において個人「原鉄工所」として創業。51年法人組織に変更し社名を原鉄工(株)と改める。03年高速鉄道に使用されるナットの生産開始。06年自動検査機導入。12年冷間圧造パーツフォーマー機PF550を増設する。

●会社概要／社名：原鉄工株式会社 住所：〒671-0224 兵庫県姫路市別所町佐土975 (姫路工業団地内)  
電話：079-252-1391 FAX：079-253-7551 URL：http://www.hara-tek.co.jp





ヒメジ理化株式会社  
平成25年度受賞  
石英ガラス製楕円  
集光ミラー加熱ユニット

半円から楕円に変える革新  
照射角度と材質の特性を  
知りつくした職人技の集大成

金属不純物の少ない石英ガラス。その専門的な加工を手掛け、ハロゲンランプ等の電球や半導体にも精通したヒメジ理化(株)。

製造現場等で対象物を加熱加工する時に使われる「集光ミラー加熱ユニット」という装置がある。同装置の材質はアルミが主流で、連続照射により熱を帯びるため、専用の冷却装置が必要だ。そこで冷却装置不要な新しいユニットを実現するため、軟化点の高い石英ガラスの反射面に、金を塗布した製品の開発に乗り出した。

形状は集光の効率が良い楕円の形状とすべく挑戦を始めたが、軟化点1600℃の石英ガラスの加工に苦戦。体感温度約50℃の過酷な環境の中、ガラスを曲げる作業は絶妙な職人技を必要とする繊細な作業の繰り返しだった。

1年の歳月を要し納得のいく製品を完成させると、多くの製造現場から反響があり県の特別技術賞も受賞。公私ともに認める画期的な開発となった。



1



2 3



1.石英ガラス製楕円集光ミラー加熱ユニット。 2.自社で開発された製品の数々。 3.丸山氏が指揮を取り開発され、今回の受賞となった。



商品開発はあくなき挑戦の繰り返し  
失敗を恐れず挑戦した職人が得た知識を後輩にも

開発した当時の想いと将来の新たな展開

ものづくりにおいて、智恵を絞れば形は想像できますが、それをどうやって形にするのかは至難の技です。お客様やメーカーからの要望は高くなる一方。通常業務の合間をぬって行う製品開発は本当に大変ですが、評価された時の喜びはひとしお。自由な発想で失敗を恐れず取り組むこと。それが大切。限られた時間の中で、いかに若い人材を育てていくのかも課題ですが、先輩の経験を踏まえ大きく成長してほしいです。



製造2部 製造技術科 技術Gr  
丸山 剛氏

●会社沿革 / 1968年ヒメジ理化(株)設立。理化学用、照明用ガラス加工。72年照明用石英バルブ加工に参入。85年紫外線ランプ製造。91年ハロゲンランプ製造。92年半導体向け石英加工に参入。14年会津工場(会津若松市)で操業開始。

●会社概要 / 社名:ヒメジ理化株式会社 住所:〒671-2111 兵庫県姫路市夢前町杉之内17  
電話:079-336-3221 FAX:079-336-3223 URL:http://www.himejirika.co.jp



## 株式会社宝角合金製作所 平成22年度受賞 竹パウダー製造機

### 農業法人から依頼を受け 自社の技術を生かして 開発に取り組んだ

日本各地で問題となっている放置された竹林を竹粉に活用したいという農業法人の依頼を受け、金属加工技術を応用して製造された「竹パウダー製造機」。竹パウダーはその中に存在する乳酸菌を発酵させて土壌改良剤、有機堆肥、お茶の原料や畜産飼料、生ごみ分解等、その用途はどんどん広がっている。当時、粉碎技術を持った企業等数社が参入していたが、自社が保有する「削る」技術を応用すれば、温度を上げず微生物を生かしたまま、より細かい微粒子の粉末を作ることができるという自信があった。問題だったのは、工業製品は規格が決まっているが、自然のものはそうはいかないということ。曲がりや節のある竹であっても、その95%に対応できないと機械としては使えない。形が変わっても安定的に竹を回しながら削れる装置の開発。それが特許取得へと繋がった。現在は、竹パウダーの魅力を広く発信するための通販サイトも立ち上げた。その努力の甲斐あってか、農業法人等から注文が来ているほか、海外からの引き合いも。未利用資源を生かした取り組みは、まだまだ続く。



1.金属加工メーカーならではの削り技術が取り入れられている。 2.竹パウダーは乳酸菌が豊富に入っているため、ヨーグルトに似た香りがする。

interview  
これぞ!! 極意!!  
ものづくりの

### オンリーワンの商品でナンバーワンに 後継者になりたいと思われる職人でありたい



代表取締役  
宝角勝利氏

#### 開発した当時の想いと将来の新たな展開

農業法人に声をかけてもらわなければ、この事業は始まっていませんでした。これからは、暮らしの役に立つものを作ることに力を注いでいきたいですね。竹粉は海外からも注目されており、海外展開の足がかりになればと考えています。また、竹を使った新素材も開発しており、身近な竹をいろんな業界の新品に使うのがこれからの楽しみです。

●会社沿革 / 1929年非鉄金属鋳造工場として創業。47年宝角式渦巻ポンプを設計・製造販売開始。59年法人組織に変更、称号を(株)宝角合金製作所とする。86年現在の地に業務拡大をめざし移転。08年「大物旋盤.com」開設。09年自社製品竹粉砕機「バンブーミル」販売開始。

●会社概要 / 社名：株式会社宝角合金製作所 住所：〒672-8035 兵庫県姫路市飾磨区中島1345-2  
電話：079-234-4116 FAX：079-234-5116 URL：http://www.houz.co.jp



前實製革所  
平成24年度受賞  
姫革友禅

姫革に多彩な京都友禅染を施した優美で美しい  
オンリーワン製品

姫路の伝統工芸「姫革」と多彩な友禅模様を施した京都の「京友禅」。

この二つが融合した革は、実に優美で美しい。これが、前實製革所の「姫革友禅」だ。その誕生までの道のりは、長く厳しいものだった。友禅染の工程の中、熱処理をして糊を落とす加工があるが、このとき一緒に染料が流れてしまい、染物職人の思うような色が再現できない。試行錯誤を繰り返しながら、独自に技術力を高め、ようやく納得がいく製品になるまで10年の歳月が流れていた。その後も困難は続く。

如何に良いものを作ろうと、発信力がなければモノは売れない。そんな時に一つの出会いがあった。世界で活躍するバッグデザイナー・由利佳一郎氏が姫革友禅を気に入り、デザインとプロモーションを行ってくれた。由利氏とのコラボレーションによって、イタリア皮革業界で幻の黄金の革と言われていた「CUOI D'ORO (クオイドーロ)」の復活も実現させた。他者には真似できないオンリーワンのものづくり。前實製革所の挑戦は、これからも続く。



1.靴、鞆、財布等さまざまな革製品へと展開される姫革友禅の可能性は無限だ。 2.型紙に合わせて、革を断裁していく。 3.工場内では創業当時のたいこが現役で活躍。

interview **まったく新しい革づくり**  
これぞ!! 極意!!  
ものづくりの **姫革友禅を世界に向けて発信していく**

開発した当時の想いと将来の新たな展開

皮革の伝統が息づく姫路市の中でも、古くから高い製革技術を培ってきた高木エリア。この町で技術を磨いてきた当社は、製革技術に自信と誇りを持っています。

「姫革友禅」の普及は先代社長の頃からの夢でした。今年、「姫革友禅」を市場展開する予定で、素材提供のみならず製品販売も考えています。



代表  
前田大伸氏

●会社沿革 / 1976年設立。91年～95年香港レザーフェアー出展。08年前田實生より前田大伸へ代表交代。12年ひょうご・神戸チャレンジマーケット2012認定企業として採択。13年「姫革友禅」商標登録第5608930号。14年イタリア・ミラノ開催ミベルアワードパノラマ部門に入賞。がんばる中小企業小規模事業者300社に選ばれる。

●会社概要 / 社名：前實製革所 住所：〒671-0256 兵庫県姫路市花田町高木325-2  
電話・FAX：079-289-1564 URL：http://www.maemi-seikakusyo.com



マルイ鍍金工業株式会社  
昭和63年度受賞  
めっき工房

形はコンパクトだが  
仕様と仕上がりは  
ホンマもん

鎖やナット等の表面処理加工で60年近く地場産業を支えてきたマルイ鍍金工業(株)が、手軽にできる本格めっき用具「めっきごっこ」を製造販売した昭和63年頃は「プリントごっこ」が一般家庭に定着。工業用のめっき技術のノウハウを生かし、めっき液の安全性を徹底的に追求。乾電池方式で特別な設備も必要なく、セットされた用具だけで本格的なめっきができるとあって、販売当初よりメディアの取材も多く、展示会での実演PRも功を奏し、ホームセンターや東急ハンズでの販売を伸ばした。

趣味の作品作りはもちろん、大学や企業の研究所からプリント回路基板の金めっき用としての注文も相次ぎ、発売から2年後「めっき工房」とネーミングを変え、今も安定した売り上げを確保している。

鉄を磨き、油を取り、銅・ニッケル・金めっきに仕上げていく工場の作業過程がそのままセットされた商品は、会社の実績を周知させ、信頼を獲得するツールにもなっている。



1.誰でも手軽にめっきを塗布することができるキット。 2.60年続くマルイ鍍金工業(株)はものづくりに力を注ぐ従業員に支えられている。  
3.今まで使っていたものに新たにめっきをするという楽しみを生み出した。

interview  
これぞ!! 極意!!  
ものづくりの

めっきの可能性を更に広げて、  
めっきをもっと身近に



代表取締役  
井田義明氏

開発した当時の想いと将来の新たな展開

一番苦労したのは、毒物取締法の対象に該当しないめっき溶液の製品化で時間とコストがかかりました。一般向けですので、安心・安全は絶対にクリアしないとけない課題でした。大学や研究所からの問合せは「ホンマもん」と認められた証と自負しています。  
今、電気を通さないプラスチックのめっきに取り組んでいます。これが実現すればめっきはもっと身近になるでしょう。

●会社沿革 / 1957年溶融亜鉛めっき業としてマルイ鍍金工業所を創業。88年に簡易めっき用具「めっきごっこ」を製造販売開始。89年に「めっきごっこ」が展示会にて各種賞を受賞。92年株式会社に組織変更。04年に韓国と青森、06年に千葉、12年に中国に工場を設立。15年にアルマイト処理パイロット設備を導入。

●会社概要 / 社名：マルイ鍍金工業株式会社 住所：〒672-8023 兵庫県姫路市白浜町甲402番地  
電話：079-246-0957 FAX：079-246-0719 URL：http://www.e-marui.jp



有限会社明珍本舗  
平成10年度受賞

## 明珍玉鋼火箸開発の ための和鋼鍛錬法

素材との出会いが  
創作活動に火をつけ  
新たな音の世界が生まれた



1



2 3

1.一年中、火の傍で熱い鉄を打ち、一つひとつの品質を保っている。 2.たたら製鉄への熱意を持った明珍家だからこそ譲り受けることができた玉鋼。 3.玉鋼から作られた玉鋼火箸。

### interview これぞ!! 極意!! ものづくりの

音色の縁が、これからも創作活動の幅を広げます

#### 開発した当時の想いと将来の新たな展開

伝統を守り、次の職人を育て、生活していくのは本当に難しいことです。しかしその中で人が出来ないことを考え、開発していくことは楽しい。だから続けているのです。最近では錆びにくく、高強度かつ軽量で、熱伝導が遅いといったチタンの優れた特性を知り、料理箸を手始めに、火箸、お鈴、ぐい飲み等、特性を活かした作品を作りました。今では大手の製鉄会社から鉄やチタンの供給や研磨の分野まで協力していただいています。音色の縁が奏でる鉄の世界を、これからも作り続けていきます。



代表  
明 珍 宗 理 氏

甲冑から火箸、そして火箸風鈴へと、作る作品は時代と共に変化してきたが、作る技術は変えることなく頑なに伝統技術を守る工房がある。彼らが作り出す火箸風鈴の音色は音響メーカーの音質検査にも採用され、音の妙技ともいえる。そんな工房に新たな挑戦が始まった。明珍家でも途絶えてしまった日本古来の「たたら製鉄」で作られる玉鋼たまはがねからの鍛錬法を復活させようと玉鋼の入手に奮闘し、刀匠以外では初の認可を島根県横田町の村下むらした(たたら操業の長)の助言により日刀保にっとうほの認定を受ける。出来上がった火箸の音には、今まで聞いたことのない、共鳴する「うねり」と深い余韻があり、音楽(富田勲氏や服部克久氏)や映画(山田洋次監督作品)、舞台等の音源・演出に採用された。「新たな挑戦に間違いはなかった」と話す52代当主の言葉の根底には、「生活が成り立ってこそこの技術継承」という思いが息づいている。玉鋼の鍛錬技術を学ぶため刀匠に弟子入りしていた次男が刀工として独立。明珍家の挑戦はこれからも続く。



●会社沿革／平安時代からの甲冑師の家系。室町～戦国時代、明珍信家が武田信玄着用の兜を作る。江戸時代、明珍義時が幕府の長老・酒井忠清お抱え甲冑師となる。明治時代、甲冑の需要がなくなり、廃業の危機に見舞われるが、火箸を生業にし「明珍火箸」が誕生。1965年「明珍火箸風鈴」が誕生。92年現当主が52代宗理を襲名。

●会社概要／社名：有限会社明珍本舗 住所：〒670-0871 兵庫県姫路市伊伝居上ノ町112  
電話：079-222-5751 FAX：079-222-5752 URL：http://myochinonpo.jp



ヤエガキ醗酵技研株式会社  
平成28年度受賞  
非アレルギー性  
β-キチンナノファイバー

ナノテクノロジーで被災地復興  
医療・美容分野に安全なものを  
純粋素材で細胞を活性化

東日本大震災の被災地となった三陸沖は、イカの水揚げ量が日本一といわれている。そこから廃棄されるイカの中骨は年間100tにもものぼることから、これらを再生資源として活用し、被災地復興の足がかりとなる産業を作ろうと奮闘するのがヤエガキ醗酵技研(株)だ。

現在、カニやエビの甲殻を利用したα-キチンはグルコサミン等健康補助食品の材料として使用されている。一方イカ由来のβ-キチンはあまり使用されてこなかった。

そこで同社ではイカ中骨から得られるβ-キチンをマッハの速度で処理し、超微細な3次元ネットワーク構造のファイバーを製造することに成功した。

1mmの25万分の1という細い繊維は原料のキチンにはない機能性がある。

創傷治癒効果や皮膚細胞を活性化する作用があり、また化学薬品を一切使用せず水とβ-キチンのみで作られた安全性の高さから、医療や美容の分野からも大きな期待が寄せられている。



1.特定の微生物だけを純粋増殖できる培養装置。2.左から順にイカの中骨、β-キチン、β-キチン粉末、β-キチンナノファイバー。3.播磨の酒蔵のひとつ、ヤエガキ酒造の蔵も敷地内にある。



伝統を継承しつつ、変革していく勇気をもつこと  
オンリーワンの技術で価値創造を図り、生き残りに挑む



機能性食品研究開発部 次長  
山下 和彦氏

開発した当時の想いと将来の新たな展開

β-キチンナノファイバーを生成する技術はわが社だけの技術です。細胞活性化効果と安全性の高さでアレルギー反応の出にくい製品の実現に向け、日々研究を重ねています。独自性を競い合う企業では、多くの人に役立ててほしい技術を秘密にする事が多いので、タイアップする企業選びも大変です。自己満足で終わることなく、お客様が満足できる製品を提供していきます。失敗を恐れず、挑戦を続けていくことが弊社のポリシーです。

- 会社沿革 / 1666年播磨国林田に酒屋を始める。1914年長谷川合資会社設立。62年ヤエガキ酒造(株)登記。79年ヤエガキ醗酵技研(株)設立。88年安富工場竣工。01年ISO9001:2000年版取得。
- 会社概要 / 社名: ヤエガキ醗酵技研株式会社 住所: 〒679-4211 姫路市林田町六九谷681 電話: 079-268-8070 FAX: 079-268-8065 URL: <http://www.yaegaki.co.jp/bio>



株式会社やなぎた  
平成8年度受賞  
新パーマシステム  
ジュエリーパーマ

キラキラ光るパーマ液が  
名前の由来、そして今も  
理美容業界で輝き続ける

姫路の網干で美容院と理容室を経営するかたわら、美容業界のメーカーをはじめ、全国的美容室にその名を知られる会社がある。当時200度近いコテを髪に直接あてる男性のパンチパーマに疑問を感じていた柳田社長は、散髪で来店したダイセル化学工業の方との会話の中で、新しい化学原料が開発されていることを知る。話の流れで新しいパーマ液の原料を作る用途開発を共同で行うことになった。更にコテの開発にも着手し、平成2年に低温アイロンパーマ「ジュエリーパーマ」を発表した。日本のみならず、ヨーロッパの特許も取得し、それまでのパーマの常識を破ったとして業界紙では「パーマの革命」として紹介された。

その後も「ジュエリーパーマ」をベースにした、髪を傷めず施術時間が短いパーマ液やトリートメント剤の開発、その施術方法を次々に発表する。同社の美容院は全国でも珍しい理容と美容とを併設する店舗で、各地から見学に来る同業者も多く、元気のあるサロン経営としても注目を浴びている。



1.美容室と理容室を同じ店内に併設している。 2.自社で開発された製品の数々。 3.低温で髪を痛めないことにこだわったジュエリーパーマ。

interview **お客様の立場に立って、喜んでいただける  
確実な店づくりが基本**

**開発した当時の想いと将来の新たな展開**

プロの理容師としてパーマをかけることには自信を持っていましたが、開発と言っても化学に関しては素人でしたし、特許に関しても分からないことだらけで苦労しましたが、その時々には知恵袋のようなブレンに出会いここまでやってきました。美容業界はどうしても東京中心になってしまいますが、当社にはまだまだ業界のお役に立てるノウハウがあります。今後も積極的に姫路からビューティー発信をしていきたいです。



代表取締役  
柳田 政 弘 氏

●会社沿革／創業約140年の理美容室(社長が4代目)。89年理美容業務用品卸売業としてワイマック設立。91年医薬部外品化粧品製造業として(株)理創化研を設立。全国に独自パーマ剤はじめ美容化粧品を販売するメーカーとして現在に至る。

●会社概要／社名:株式会社やなぎた 住所:〒671-1235 兵庫県姫路市網干区北新在家248  
電話:079-273-2541 FAX:079-274-5410 URL:http://www.jewel-cosme.jp



## 株式会社ユメックス 平成24年度受賞 ショートアークランプ の陰極

### 高性能・低コスト・長寿命 地球環境にもやさしい 省資源ランプの開発に成功

ショートアークランプの陰極は、液晶パネル等を作る工程で使用される特殊放電ランプの心臓部となる部材であり、本技術は従来よりも放射性物質であるトリウムの使用量を100分の1までに低減させたことが最大の特徴となる。

それまでは、電子放射性をよくするために、タングステンに放射性物質である酸化トリウムを微量添加したトリエーテッドタングステンを使用。しかし、地球環境負荷への観点から放射性物質への規制が厳しくなり、供給不安や価格高騰が懸念される中、業界では代替材料の開発が待ち望まれていた。このような経緯から、同社では2年の歳月をかけ新製品に取り組んだ。

ショートアークランプの陰極は、特殊な接合技術により、先端部のみトリエーテッドタングステンとし、その他はトリウムフリー材を採用可能とした。本技術により大幅な放射性物質の低減とレアメタルの再利用が可能となった。

同社では、今後も新しい技術開発に挑戦し、高品質で付加価値の高いものづくりを進めていく。



1.ショートアークランプ製造の様子。 2.放電ランプ陰極部分。 3.長寿命で高安定度の光は、業界で、幅広く用いられている。



### 技術力を生かし、高品質でどこにもない ものづくりを追求していきたい



代表取締役  
千木 慶 隆 氏

### 開発した当時の想いと将来の新たな展開

当社は、液晶や有機ELに代表されるFPD（薄型テレビ）やPCB（プリント基板）、半導体等の製造ラインに用いられる露光用超高圧水銀ショートアークランプをはじめ、デジタル映写機用キセノンショートアークランプ等を製造・販売する特殊放電ランプのメーカーです。「顧客満足」と「全員研究員」をモットーに、地球環境に配慮し、まだ世の中にもないものを研究し、開発、製品化するべく邁進しています。

●会社沿革 / 1992年設立。94年花田工場に移転。98年大型ショートアークの立上げ。99年社名を(株)ユメックスに変更。本社・工場を姫路市夢前町に移転。02年大連ユメックス設立。04年ひょうご経営革新賞受賞。05年第15回ニュービジネス大賞 アントレプレナー大賞 特別賞を受賞。

●会社概要 / 社名：株式会社ユメックス 住所：〒671-2114 兵庫県姫路市夢前町糸田400  
電話：079-335-5111 FAX：079-335-5212 URL：http://yumex-inc.co.jp





株式会社理創化研

平成28年度受賞

マイクロフォームクレンジングセラム  
プロテクトセラム

### 美容業界の革新技術 「髪のかすり傷」をつくらない 微細泡シャンプー&トリートメント

通常のシャンプーでは毛髪同士をかすり合わせて泡立てているため、「髪のかすり傷」を作っている。

このダメージ原因の発見に基づき、髪をかすらずに洗うために開発されたのが、プッシュするだけでたっぷり泡で出てくるシャンプー。更に通常はクリーム状のトリートメントも同様に泡にすることに成功し、美容業界の革新的な技術となった。

マイクロフォームの名の通り、泡のサイズを「毛穴と同じ0.2mm」という微細にすることで、毛穴の中までしっかり洗い上げることができる。また、トリートメントは泡ならではの高浸透力で髪内部まで補修できるうえ、一般的なクリーム状の製品と比べて「油分90%カット」なので、究極のふんわり仕上がりになるのも特徴。

美容室にとっても、泡立てや、ドライヤーの時間短縮になるほか、シャンプーによるスタッフの手荒れ対策にもなるあって、大きな反響を得ている。



1.液体からきめ細かな泡にするため、専用容器にはメッシュ構造が施されている。 2.泡形状でも、プロが納得する仕上がりになることが重要  
3.特許を取得した低温ストレートパーマ技術等、美容に関するさまざまな製品を手がける。

interview  
これぞ!! ものづくりの極意!!

### 特許システムをはじめとした独自技術で、 美容業界のオンリーワンを目指す。

#### 開発した当時の想いと将来の新たな展開

「洗顔やクレンジングはかすらないのが常識なのに、髪はどうしてかすってケアするんだろう?」という疑問が開発のきっかけでした。髪を大切に、いつまでも美しくしていただきたいという強い思いで、この泡シャンプーと泡トリートメントの開発に乗り出しました。試行錯誤を繰り返してようやく完成したオンリーワンの一品です。既に全国の有名美容室を中心に広がりを見せていますが、業務用としてだけでなく、ご自宅でもぜひ愛用いただきたいですね。



常務取締役  
飯石晃久氏

●会社沿革 / 1990年医学部外品・化粧品製造業として、(有)理創化研を設立。96年株式会社に改組。97年工場・研究施設の増築。

●会社概要 / 社名: 株式会社理創化研 住所: 〒671-1235 兵庫県姫路市網干区北新在家250番地  
電話: 079-272-2540 FAX: 079-274-5410 URL: <http://www.jewel-cosme.jp>



株式会社和光製作所

平成11年度受賞

## 伸長流動分散による 超微分散技術

従来の技法とアイデアで  
おもしろい商品を生み出す  
強度と高寿命の高みを目指して

工業用ゴム部品やプラスチック等の射出成形を得意とする(株)和光製作所。

ある日、プラスチックギア部品の高寿命化の相談を受け、技術とアイデアを駆使し新たな材料を誕生させた。

従来、部品に使用される材料の形成方法は「せん断流動」で確立されていた。原料を混ぜ合わせ形成する手法では性能の限界に到達しており、新たな技術を編み出す以外に要望を満たす物は作れない状態だった。

そこで応用したのが「伸長流動」という原料を引きのばす方法と原料を流し込む圧力を高めた手法だ。これに加え流し込む原料を更に微細化するという3つの技術を組み合わせた独自の製法だ。

絶妙な配分を導き出すのに要した期間は約3年。伸長流動と微分散がかなえる強度は業界に画期的な変革をもたらした。

現在も他社では再現できない「ありそうでなかった」を開発し、新たな改革を続けている。



1.自社で製作された製品の数々。 2.射出成形に特化して、さまざまなお客様のご要望にお応えできる体制を整えている。 3.工場内はきれいに整理整頓が行き届いている。



画期的な商品ができると喜びとともに嫉妬心  
ないものはない時代にあって驚く工夫を考え続ける



代表取締役  
廣田 晃一 氏

### 開発した当時の想いと将来の新たな展開

毎日、今の技術に工夫できることはないか、おもしろい商品は作れないかと考えています。金型も材料も開発研究チームも自社にあり、後は「一矢報いるアイデア」だけです。目を見張る製品が世に出ると、なんで自分は思いつかなかったのかと口惜しいです。だからこれからも考え続けます。縁の下の力持ち的な「材料を作る」という仕事なので華やかさはありません。でも世の中の役に立つ製品を作る喜びをこれからも感じていきたいです。

●会社沿革 / 1962年姫路市福中町において故・廣田健治が、合資会社和光製作所設立。64年現在地へ移転と共にゴム成形品製造開始。72年株式会社に改組。90年熱可塑性エンブラ及びエラストマーの射出成形開始。04年Wakorepco Mfg.Philippine Co.(WMPC)フィリピン工場設立。15年「PASCUTシステム」商標登録。量産開始。

●会社概要 / 社名:株式会社和光製作所 住所:〒671-1102 兵庫県姫路市広畑区蒲田668番地  
電話:079-236-3009 FAX:079-237-0318 URL:http://www.wakoseisakusyo.co.jp

「がんばる姫路のものづくり支援」

# ものづくり開発奨励事業

HIMEJI MONOZUKURI

姫路の“ものづくり”にもっと活力を!  
地元企業の夢を応援します

優秀者には、ものづくり開発奨励

**補助金最高100万円交付!!**

姫路市では、産業の振興を図るため、電子、機械、化学等の分野で、新製品や新技術を開発する市内中小企業に対して、姫路市ものづくり開発奨励補助金を助成しています。

|        |  |
|--------|--|
| 【対象者】  | 姫路市内に主たる事業所を有する中小企業者   |
| 【対象事業】 | 電子、機械、化学等の分野における新製品や新技術の開発で、該当年度中(4月1日～3月31日)に完成又は完成見込のもの。   |
| 【補助金額】 | 開発等に要した経費で、100万円を限度とします。   |
| 【必要書類】 | <p>次の書類を下記の提出先へ持参してください。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>●補助金等交付申請書</li><li>●ものづくり開発事業計画書</li><li>●法人の登記事項証明書(個人の場合は住民票)の写し</li><li>●特許等に係る申請書、通知書等の写し</li><li>●補助対象となる製品・技術に関する資料</li><li>●姫路市税に係る直近年度の納税証明書</li></ul> <small>※補助金交付申請書は姫路市ホームページ→「産業振興課」→「中小企業者への支援制度に関するご案内」→「姫路市ものづくり開発奨励補助金」のページからダウンロードできます。</small> |
| 【選考方法】 | 学識経験者等からなる検討会議において、プレゼンテーションを行っていただきます。<br><small>※但し、応募多数の場合は書類審査により、プレゼンテーション実施企業を上位10社程度とします。</small>   |
| 【申請期間】 | 11月～12月の2か月間   |

## 申請から交付までの流れ



お問い合わせ  
および提出先

TEL079-221-2513  
FAX079-221-2508

姫路市 産業振興課  
〒670-8501 姫路市安田四丁目1番地  
E-mail:sankou@city.himeji.hyogo.jp